

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4600016873
法人名	有限会社グループホームさつま坊津
事業所名	有限会社グループホームさつま坊津
所在地	鹿児島県南さつま市坊津町坊2417番地5 (電話) 0993-67-2612
自己評価作成日	令和6年1月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームが位置する坊津は枕崎に近く、北部の久志・野間方面に進むと小さな集落が点在し、過疎化が著しく進行している。高齢化率と独居率も非常に高い。事業環境としては、薩摩半島西南端に位置し、風光明媚でもあるが、社会資源である病院やスーパー等には5分から10分で行ける利便性がある。

当ホームでは、利用者各人の尊厳と生活の質を保つことと、健康で生活が楽しく過ごせるように努めている。この柱となる理念や利用者の環境を職員が共有して理解、認識するためにケア会議を開いている。

職員は、介護・認知症に対する研鑽、資格取得への努力を職員自身が考え行っている。研修も、病院や市役所等が主催するものに積極的に参加している。

また、季節の移ろいを味わって(感じて)いただくために、その時期に応じたイベントを行っている。

新型コロナウイルス感染症が流行する以前は、利用者がホームに閉じこもらないよう、良い刺激が受けられるよう、開聞町のソーメン流しや近くの公園へ彼岸花ドライブにも出かけたりしていた。そして、地元の行事や祭事である坊のほぜどんや津貫太鼓踊り等に参加させていただき、地域との絆を持ち続けていた。今後は感染状況等を踏まえ、少しずつ以前の様な活動を行っていきたいと考えている。

ホームは国道226号線沿いの緑豊かな場所にあり、さつま市の中心部よりも隣の枕崎市の医療機関やスーパー等に近く、また学校等も充実している。ホームからは、遠くに海が見え、周囲の緑と空の青が大変きれいで気持ちよく、のんびり、ゆったりとした気持ちで過ごせる環境である。

2か月毎に実施する運営推進会議は身体拘束等適正化対策委員会も兼ねて開催しており、家族や民生委員、公民館長や行政職員等が参加するほか、利用者にも参加してもらい活動状況の報告や参加者からの意見や提案をもらう場として機能している。公民館長から地域の情報を伺うとともに、行政職員からは技能実習生の住まいについて意見をもらうなど有意義な会議となっている。

利用者の楽しみ事である食事に関しては、当日調理を担当する職員が事前に利用者に食べたい物を尋ね、買い物に出かけて食材を購入し調理するため、利用者のリクエストが反映されやすい。また、年間の行事ごとに合わせた季節メニューを工夫して取り入れるほか、そば打ちでは利用者自らが包丁を使ってそば切りを行ったり、師走に餅つきを行うなど食に関するイベントを多く企画し、食が楽しみになるよう取り組んでいる。

運営や日々の支援に関する職員の意見を申し送り時や職員会議、人事考課を兼ねた個別面談で聞き取るほか、休憩時間等にも自由に意見を出してもらい、日々のケアや運営に反映させている。

うみのいえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有・理解できるよう、理念についての勉強会を行ったり、いつでも確認できるように各ユニットに掲示したりしている。また、理念を基軸とした生活支援に努めている。	経営理念と法人理念を掲げ、つわ採りなど、これまでしてきたことやこれからしたいことに取り組める環境を大切にしながら利用者の生活を尊重していけるよう、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、坊の「ほぜどん」、栗野の「赤水祭り」、津貫の「太鼓踊り」を見に行くなど地域との交流を行っていたが、今は感染症対策の為、外出できず、地域との交流はできていない。	自治会に加入しており回覧板により地域の情報を得ている。地域住民とは散歩に出かけた際に挨拶や会話を交わしたり、季節の山菜が採れるとお裾分けして頂くなど日常的に交流している。また、高校生の実習を受け入れられる体制も整えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域行事等へ参加し、地域の方々と触れ合うことは認知症の理解につながると考えているが、感染症対策の為外出できず、思うような活動ができていない。 しかし、キャラバンメイト交流会等には参加・活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、市職員・包括職員・家族代表・地域代表の方々にお越しいただき、利用者様の状況や行事報告と予定について説明し意見を頂いている。 また、会議内容については職員の引継ぎ時やケア会議等で報告し、運営向上に努めている。	運営推進会議は身体拘束等適正化委員会と同時開催とし、利用者や家族、民生委員や公民館長、行政職員や包括支援センター職員も参加して行われている。会議では行事報告や利用者状況、行政からの助言があるほか、公民館長からの地域情報等をサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本庁や支所にサービス事業所更新申請関係や変更申請、介護認定更新、保険証の更新等で訪問させて頂いている。 また、運営推進会議に市職員に参加してもらい、意見を頂くなど協力をして頂いている。	行政職員とは運営推進会議のほか、介護関係の書類提出時や相談事がある時に電話や対面で助言をもらっている。また、薩摩半島支部グループホーム協議会主催の研修会に参加したり、包括支援センターとも良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を運営推進会議と合わせて開催したり、身体拘束や高齢者虐待等の行為についてケア会議で勉強会を行ったりして、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 日中、玄関の施錠をすることはないが、安全確保の面から利用者様の行動を見て必要時のみ玄関の感熱センサーのスイッチを入れることがある。	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束に関する研修会を年2回以上実施している。また、身体拘束等適正化対策委員会は運営推進会議と併せ年6回実施している。言葉による拘束については、利用者にわかりやすい言葉で説明するよう気を配るとともに、行動を制限させてしまう声掛けは拘束であることを繰り返し話し合い確認するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を、運営推進会議及び身体拘束適正化委員会と一体的に行っている。 また、ケア会議でも高齢者虐待について取り上げ研修を行い、虐待防止に努め、ホームの理念遂行につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がいらっしゃるため、ケア会議で権利擁護・成年後見制度について研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前（入居前）に重要事項の説明を行い、疑問点や不明点がないか確認し、不安がないように努め、納得していただいてから契約締結へと進めている。 重要事項に記載のない、新たな加算等については、文書で説明し、同意を得て改訂を行っている。（介護給付費の改定は除く）		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が要望を言われた際は、お聞きし、対応できる時は利用者様の体調や健康面を考慮し対応している。 ご家族に対しては、利用料支払い時にご意見やご要望をお聞きしたり、運営推進会議に家族代表の方に参加していただき意見を頂くなどして運営に反映させている。	年に3回お便りを作成し、請求書や写真と共に家族に送付するほか、LINEのビデオ通話等も活用して利用者状況を報告し意見や感想をもらっている。また、現在は玄関内でのアクリル板越し面会ではあるが、終末期等においては居室での面会や一緒に過ごしてもらうなど状況に合わせて対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ケア会議で職員の意見を傾聴している。また、職員から出た意見を会議で一緒に検討することで他の職員の理解向上につながっている。 会議以外では、休憩時の何気ない会話等から職員の意見を聞いたりしている。 管理者は職員から出た意見を代表に報告するなどして運営に反映させている。	職員の意見や提案については、毎日の申し送り時や職員会議、休憩時間等に聞き取るほか、年1回人事考課を兼ねた個別面談や相談事がある時等に個別に意見を聞いている。また、研修や資格取得時にはバックアップがあるほか長期の休みの希望にも対応するなど、職員の意欲の向上や働きやすさに反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や主任から職員の勤務状況の報告を受けたり、職員から直接話を聞いたりしている。また、面談をするなどして職員の努力状況の確認をしている。 また、業務だけでなく、職員の心配事にも傾聴し、働く意欲の妨げになる問題にも対処している。更に、職員の資格取得のために必要な講習に参加できるよう協力・助成をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者には、職員研修計画があり、同行研修を行っている。 また、職員個々の経験に合わせて外部研修への参加を促し、市やグループホーム連絡業議会等の貴重な研修に積極的な参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時から他のグループホームと交流があったが、コロナ禍の感染症対策の為、積極的な交流はできていない。しかし、同一法人の職員間で交流を持ち、自施設のサービスの質の向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の早いタイミングでご本人（ご家族）にお会いし、不安な事や困っていることなど支援が必要とされることについて傾聴し、それらの不安要素をやわらげるための検討をしたり、利用者様の本来の性格や病気等の症状をできるだけ理解し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者様の中核症状や周辺症状による生活への影響やご家族の苦労や心配事をお聞きし、利用者様とご家族の状態の共有に努め、信頼関係づくりの構築を図っている。また、要望などをお聞きし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、職員と課題分析を行っている。そして、ニーズを見極め、適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の重度化に伴い、出来ることも限られてきているが、つわの皮むきや蕎麦打ち、もちつき等、可能な限りできることを一緒に行い、季節折々の行事等で身に刻まれた能力を発揮していただき、共に支えあう関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された方には、利用者様の施設での様子や問題点などを報告・相談し、共にご本人を支えあう関係づくりに努めている。遠方で来れない方については、電話等でやり取りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は地域の行事に参加するなどして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援できていたが、コロナ禍になり現在は支援できていない。 ただ、面会は可能なので面会という形での支援を行っている。	これまでの馴染みの関係を入居時に詳しく聞き取り把握した上で友人や知人との関係が途切れないよう電話や手紙の取り次ぎ、面会による交流を続けている。これまでのところお墓参り等の要望は出ていないが、希望があれば家族とも協力して対応したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースの居間では、テレビを観ながら談笑されたり、利用者様が他の利用者様の手伝いをされたり、共同生活者の感覚を持たれている様子が窺える。 また、職員は利用者様同士の関係を把握し、食堂で支え合い落ち着いて食事が摂れるように席替えをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老人福祉施設等への入所で契約が終了しても気軽に相談できるようにご家族へ声掛け等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から利用者様の意向やご家族の要望をお聞きして、利用者様の要望に添えるように職員間で相談をしている。また、言葉での表現が難しい方は表情等で利用者様の気持ちを汲むようにしている。	日常会話や声を掛けた時の表情等から利用者の思いを汲み取るほか、家族や入居前の関係者からの情報も参考に意見を把握している。入居後の気づきについてはタブレットに記録するほか、申し送り時等において共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴・趣味等についてご本人やご家族等から情報を収集している。 また、在宅の方は訪問し、実際の生活環境を見させていただきながら話を伺い、その方の生活歴と現在の暮らしの把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の様子や状態について記録をし、現状の把握に努めている。また、職員間で齟齬がないようにケア会議等で報告・相談等を行い、利用者様の状態の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行ったり、ケア会議で報告・相談等を行いケアプランの作成に反映させている。また、利用料支払い時にご家族から希望を聞くなどして、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の生活に対する意向や家族の要望を汲み取るとともに、毎月のカンファレンスや定期モニタリングを参考にケアプランを作成している。また訪問診療に来られた際に確認した主治医からの助言や薬剤師の意見もプランに反映させるほか、状態変化時はプランを見直し、現状に即したプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした、何気ないことも記録に残し、職員間で情報の共有に努めている。また、ケア会議等で報告・相談を行い、ケアプランと現状に齟齬がないように介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望やご家族の意向をお聞きし、そのニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為、地域の行事等に参加することができなかったが、運営推進会議に地域の自治会長に参加をいただき、地域の情報を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の坊津病院に定期的に訪問診療をして頂いている。 利用者様の状態に異常がある場合は主治医と共有している専用アプリで写真を添付するなどして指示を仰いでいる。 基本的には利用者様ご本人やご家族が希望される病院を利用して頂いているが、遠距離の病院を利用されている方にはご本人やご家族に納得していただき、地域の協力病院に変更していただいている。これは、緊急時の対応も考慮してである。	毎週協力医療機関の医師が訪問診療に訪れており、24時間医療との連携が図れることから現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医として利用している。眼科や脳外科等の他科受診については、職員が受診を支援しており、受診の記録はタブレット等に記載して情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の体調等の変化に気づいた時、管理者や看護師（正・准）に状況を速やかに伝え、病院受診の必要性があるか等相談し、苦痛の軽減や不安の解消に努めている。 日常的な面では一つの例として整腸剤の服薬コントロールを看護師と相談して調整している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各病院の地域連携室と情報交換を行い、利用者様の状態の把握に努めている。 また、訪問診療の際に直接主治医に利用者様の状態を確認し、早期退院（方向性）に向けた話をさせて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の利用契約時に重度化した場合や看取りの方針について説明し、方針の共有と相互理解を図っている。また、意思確認書を利用契約時に提出いただき、支援に反映させている。意思確認書は年1回更新し、いつでも変更・取り消しが出来るものである。 また、病院と連携をとり、主治医と利用者様の状態を相談しながら介護老人福祉施設の紹介や入所申請の説明も行っている。	「重度化した場合（看取り）の対応における指針」「意思確認書」を整備し、共に入居時に説明と同意署名を取り交わしているが、意思確認書については、思いの変化を汲み取れるよう、毎年説明と同意を交わしている。指針には看取りはしないと記載してあるが、医療を必要としない自然な死（老衰）を迎える場合は看取りまで行っており、今後も同様にこれまでの支援を続けていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成している。また、年2回避難訓練を行っているが、分遣隊の方に参加いただき、緊急時の対応について学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っているが、そのうちの1回は夜間帯を想定して訓練している。分遣隊や地域の消防団の方に参加をいただき、協力体制を依頼している。	年2回消防署立ち合いの下、夜間想定を含めた火災や地震の訓練を実施している。備蓄に関しては飲料水や災害用備蓄食を3日分程度、備品についても職員と利用者全員分の防災頭巾や災害用備蓄ライト、アルミシート等をBCP策定基準に合わせた数量を整備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライドを傷つけないよう、声掛けのタイミングや声の大きさに気を付けて支援している。 入浴介助では、同性介助を希望される利用者様の希望に応え、対応している。	権利擁護や認知症に関する研修を計画的に実施し、トイレ誘導時の声掛けをさり気なく行ったり、入浴の際は希望に合わせて同性介助により支援する等、本人の気持ちに配慮している。また排泄についてはタブレットに記録するため利用者の目に触れることはない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	着替えの衣類を自分で選んでいたくなど、日常生活において自己決定の機会を設けている。疎通が難しい方は、ゆっくりと声掛けをし、表情や仕草から判断し、自己決定の支援をさせて頂いている。更に食事で食べたいものをお聞きし、提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ファッションにこだわる方が多く、着替えの際、ご自分で洋服を選ばれてお洒落を楽しむ方もいらっしゃる。また、敬老会では口紅を付ける方もおられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな食べ物をお聞きし、メニューに取り入れている。 食材の準備では、つわの皮むきや豆をさやから取り出す作業を職員と一緒にしていただきながら旬の食材に触れ、季節感を味わっていただいている。	調理を担当する職員が事前に利用者さんに食べたい物を尋ね、当日のメニューに反映させている。お正月や節句、クリスマス等には季節のメニューを取り入れるほか、そば打ちでは利用者が包丁を使ってそばを切ったり、師走に餅つきを行う等、食に関するイベントを多く企画し楽しく過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様各人の状態に合わせて、きざみ食・軟飯・ミキサー食を提供している。また、塩分管理が必要な利用者様がいらっしゃるため、提供する料理の塩分濃度を測り、1日の塩分摂取量を計算している。 水分に関しても摂取量を確認・記録に残している。状況によってはお茶をOS-1に変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて声掛け・見守り・一部介助・全介助にて支援をしている。 夜間は義歯をお預かりして酵素入り洗浄剤に一晚漬けて消毒をしている。 治療が必要な時には、協力歯科医院に連絡をして受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個人の排泄時間の記録をとって排泄パターンを見ている。そのパターンから声掛けや手引き誘導等をし、トイレで排泄できるよう支援している。	リハビリパンツを使用する方が多く、また夜間おむつを使用する方もいるが、日中は基本的にトイレ誘導を行うことで座位によるトイレでの自然な排泄を支援している。個々の排泄状況はタブレットにより記録しており、排泄介助方法についてもケアプランに組み込みケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維が多い食材を利用した料理を提供したり、運動できる方は廊下で歩行していただき適度な運動を取り入れることで便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には週2回の入浴だが、利用者様の意思を尊重したり、入浴当日のバイタルや心身の状態を考慮し、入浴の判断をしている。 一般的な浴槽と特殊浴槽を利用者様の状態に合わせて使い分けている。 入浴に際し、利用者様の好みの温度に調整したり、同性介助を希望される利用者様の希望に応えたりしている。加えて、体全体の皮膚の状態を確認させていただき、入浴支援をしている。	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。片方のユニットには特殊浴槽が設置されているため、立位や歩行が難しい利用者も浴槽にゆっくり浸かることができる。また、入浴後の皮膚観察やケアのほか、水分補給についても気を配り対応している。入浴をためらう場合は声掛けのタイミングを見計らったり、入浴券を準備して声を掛けるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状態に合わせて、10時のお茶後や昼食後に午睡を取り入れ、休息していただいている。 就寝時には利用者様の状況を見ながら話を聞いたり、テレビを観ていただくなどして落ち着いてから就寝していただいている。 不眠等の状況によっては医師に相談し、医療面から安眠の支援をさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病気に対する薬を理解し、症状の変化に注意をしている。特に処方箋に変更がある場合、バイタルの変化や情動的な面でも注意し、変化が認められた場合には病院と連携し早急な対応をしている。 薬の情報はファイリングして職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、受診後は診療内容を記録し、スタッフには必読してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞紙折りや、カレンダーの色塗りなど日常生活の中で何らかの役割や仕事を持っていただいている。 また、七夕飾りやクリスマスツリーの飾りつけなど利用者様の状態に合わせて出来る事をしていただき、季節感を感じていただくことで気分転換をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為に日常的に外出することはできなかったが、気候が良い時には外でお茶をしたり、施設周辺を散歩するなどして気分転換を図った。 また、四季折々の花を飾るなどして、外出した気分を味わっていただけるよう工夫した。	コロナ禍以降、外出の機会は減っているが、散歩や施設内での活動などできることに取り組んでいる。散歩は少人数で行い、歩行の難しい方も車椅子で出かけたり、ユニット間をつなぐバルコニーにおいてお茶を飲みながら日光浴を行うなどユニット間交流を楽しんでいる。感染状況にもよるが、来月に外食を兼ねた花見に出かける計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前にお金を持つことで安心される方には高額にならないよう、ご家族に説明し、少額を持っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持たれている方は、ご自身で連絡をとられたりしている。また、ご家族から電話がかかってきた際には電話を取り次ぎ、話をされている。 手紙については書かれる方はいらっしゃらない。 コロナ禍になったことでオンライン面会を取り入れたが、遠方のご家族が利用され、顔を見ながら会話ができるので利用者様も喜んでおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住環境的には騒音もなく、建物内に天窓から光も入り明るくなっている。 共用の場である居間や食堂には季節の飾りつけをしたり、四季折々の花を飾るなど季節感を味わっていただけるように工夫している。	フロアと廊下には天窓があるため十分な採光が得られるほか、季節毎の生花や作品を掲示しており和やかな共有スペースとなっている。また長い廊下の手すりを利用して歩行練習を行う利用者もおられる。浴室は片側のユニットに特殊浴槽を設置しているため歩行の難しい方も安心してゆっくり浴槽に浸かることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを配置し、一人でテレビを観たり、気の合った利用者様同士で会話を楽しめたりしている。 食堂では基本的に利用者様の残存能力を考慮して席を決めるが、楽しく食事ができるよう利用者様同士の相性も考え席を決定している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を部屋に飾られたり、使い慣れた家具や小物を持ってきて頂いて居室内に置き、気分が落ち着かれるよう配慮している。 また、利用者様ご自身が製作された作品も飾っている。	洗面台やベッド（電動ベッド、畳式ベッド等）が備え付けられており、寝具はレンタルであるが、自宅で使っていた寝具を持ち込まれている利用者もいる。このほか、テレビや椅子、写真やぬいぐるみ等、自由に持ち込んでもらい、動作しやすく、生活しやすいよう配置してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内・廊下・トイレや浴槽入り口はバリアフリーで車いすの方や手押し車を利用される方にも移動による障害は少ない。 自力歩行の方には歩行補助として廊下・食堂回り・トイレや浴室に手すりを設置し、ふらつき時の転倒防止に努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない